

第5回 江府町学校運営協議会【概要】

■期 日：令和3年2月5日（金）

■時 間：19：00～

■場 所：江府町役場 2階 多目的室

<会議出席者>

【委員】宮本会長、井上裕吉副会長、井上廉女委員、小椋委員、船越委員、高津委員、藤原委員、長岡委員、山本委員、瀬尾委員、竹内委員
欠席：遠藤委員、中川委員

【事務局】富田教育長、景山課長、森田教頭、山本教頭、竹田D

1 開 会

会長挨拶

2 報 告

江府小学校・江府中学校の自己評価について

	本年度の重点事項	自己評価
江府 小学校	「ふるさとを誇りに思い、自ら学ぶ意欲を持つ児童の育成」を実現する 学校経営	A
	自ら学ぶ子【知】	B+
	支え合う子【徳】	A
	心と体を鍛える子【体】	A
江府 中学校	(1) 確かな学力と、学習習慣の定着を図る	B
	(2) 安心安全な学校生活と、コミュニケーション能力の向上を図る	A
	(3) ふるさとを愛し、未来を担う人材を育成する	B

3 質疑・協議・評価

(質疑)

- 委 員 ①ICT授業について。教職員スキルアップはどうか。子どもたちの感想はどうか。
②土曜学習について。教育課程内か学校独自のものか。年間の時間数や計画はどうか。
③人権学習について。コロナへの偏見などの指導について伺いたい。
- 瀬尾校長 ①全ての学年の電子黒板と50台のiPadを導入済み。子ども達は電子黒板の操作にはかなり慣れている。先生によっては向き不向きはあるが、コロナによる遠隔授業にICTを使えないといけないということで、研究を進めている。配置しているICT支援員が教員にICT利用方法を教えることなども出来ている。ICTのハード整備が急ピッチで進む中、本町では利用について研究を進めることができた。子ども達も順応が速く、使いこなしている場面も見られる。
②週休二日制になったとき学力がつくのかということの懸念から始まったもの。江府小は、学力を高めるというより体験学習。6月に十七夜を題材にしたり、11月にしめ縄づくりをしたりして体験学習を半日実施。今年度は2回目は実施せず。来年度は11月に神楽体験を予定。授業にはカウントしないが、全員参加としている。
③子どもによってコロナに対するとらえは様々。見えない敵なので実感がわきにくい印象。

江府町が出したコロナ禍における人権宣言も配布し、発達段階に応じた指導をしたので子ども達は分かっていると思う。コロナの事も大事だが、日常生活での友達のいじめないとか人を差別しないとかということが大事。そういう事とコロナの事をつなげながらやっていくというのが小学校段階。日常生活の中でその都度やっていく。

竹内校長 ①全体の職員研修を3回実施。技量には個人差があり全体で進めていくのが難しいところ。タブレットが追加導入されたので、全校生徒に行き渡る。自由に使える時間を長くすることでもっと使えるようになっていくと思う。教員も自分用のタブレットを持つのもっと使用する方向に進んでいく。

②今年度は1日。授業日数にカウント。内容は、地域の方と一緒に「校舎を磨く会」。今年度はコロナの為、職員と生徒だけで1時間実施。

③幾度となく生徒に伝えている。感染を防ぐ指導の際、必ず人権の事も加えて指導している。折に触れ指導もしている。人権教育参観日でも、コロナに対する偏見、人権についてとりあげた学年もあった。

委員 中学校のケータイアンケート結果表の見方について伺いたい。

アントレプレナーシップスクールについて、事前事後アンケート結果を見ると非常に良い結果になっている。i.clubはどんな活動をするのか。

竹内校長 (アンケート結果数字について説明)

地域の方やi.clubに関わってもらいながら江府町という地域素材から未来を創るアイデアを考え、表現するという教育プログラム。アイデアを考える中で江府町の良さを再発見したり愛着や誇りを感じるプログラム。平成28年度から中学生議会を実施しているが、3年目からアントレプレナーシップスクールを取り入れ、その中で考えたアイデアを議会で発表している。江府町の未来を考えるということと、子ども達の自己肯定感を高めるというのが一番大きな成果。

委員 i.clubとはどういう団体か。

事務局 i.clubとは、アントレプレナーシップという起業家精神を育成するというプログラムを開発して提供している団体。今年度は、道の駅、観光協会、チロル観光など地域の方にインタビューし、それをもとに何が出来るかを考えアイデアを創り出していく際、オンラインでi.clubの方に助言をもらいながら、アイデアをまとめていった。

委員 i.clubの実態がよく分からないが。

事務局 一般社団法人i.club。会社。

会長 中学校の保護者アンケート結果から、あまり理解していないが「何かしら取組をしているだろう」と思って回答をされているように感じた。アンケートを取る際、説明をしているか。

竹内校長 説明していない。毎年12月に1年間を通じてということでのアンケート。学校便りや各学年通信等は配布しているが、中学校は保護者の方に学校へ来ていただく機会が少ない。情報の発信方法は工夫が必要。マチコミメールというツールを活用し、文書をメールに添付して送り、紙文書も渡すということもしている。保護者からは活動の様子などもマチコミで知らせてもらいたいという声もあった。

(協議・評価)

会長 小学校の1ページ目は自己評価はAだが、どうか。ICTは社会や理科でも活用しているとのことだが、算数や国語は問題が出てきて、自己学習が進められたりするのか。

瀬尾校長 発表などで使用することが多い。写真やシートを共有して画面に映して発表したり、まとめた物を後でプリントアウトしたり。表現や発表の場でよく使っている。

算数や国語の問題については、「すらら」という教材があり AI がそれぞれの子にあった問題を個別に選んで出してくれるようになっている。

会長 ここは A でよいか。(うなずき)

次のページは B+ だが、どうか。メディアに対することと家庭学習がきちんと出来ていないということで B+ にしたのか。

瀬尾校長 「標準学力調査」と「家庭学習強化週間」という評価指標をもとに B+ とした。家庭学習強化週間は、保護者の方も子ども達のがんばりを褒めてくださった。そこは良かった。

会長 B+ でよいか。(うなずき)

委員 評価を言いづらい。この中身を全て理解するのも無理だと思う。評価については、準備をして出された結果だろうから、これでいいじゃないかとなる。

会長 学校評価をして 8 年目になるが、その通りだと思う。ただ、評価はしなければならない。きちんと評価はするということをご理解いただきたい。このような結果であり、それについて評価をしてくださいというものなので、変えるのはなかなか難しいと思う。一括でやるということよいか。(うなずき)

会長 一括で評価する。意見があれば言っていただくとありがたい。自己評価のままでよいか。

委員 B+ 評価の項目について。標準学力調査の結果を見るとそうなるのかもしれないが、昨夏に 6 年生と関わったが、進んで調べ学習をするなど、自発的な自主学習が出来ていたと思う。学力には表れない評価としては、いい物が育っているように感じた。評価は B+ で良いとは思いますが、付け加えておく。

会長 評価はこのままとする。それでは、小学校は結果報告書の通りとする。

つづいて、中学校にうつる。いじめの件。いじめの対象となった生徒は元気になって登校しているのか。

竹内校長 全校集会や学年ごとに話を聞いたりして、皆で考える機会を持った。それをきっかけに、悲しい思いをしていたと打ち明ける事が出来た生徒もいた。いじめ撲滅宣言のポスターを掲示したり、自分たちの良さを生徒同士の仲が良いところだと言う生徒もいたりして、良い状況と考える。該当生徒も元気に登校している。

委員 「学校へ行くのが楽しい」「人間関係がよい」というアンケートに「まったくあてはまらない」と答えている生徒がいるが。

竹内校長 2、3 人だと思う。全員が「楽しい」というのは難しい。教育相談週間を設けたり日々様子を見たりして、生徒の話を聞くようにしている。中学生は多感な時期であるが、担任がよく見てくれている。昼休みの時間にも、担任が教室に残り、生徒の様子を見たり、勉強を教えたりしているので落ち着いているという印象。

委員 今は不登校の子はいるのか？

両校長 ゼロ。

会長 その他、意見はないか。では、江府中学校の評価についても、自己評価の通りとする。

4 その他

事務局 評価しづらいという意見を踏まえ、来年はもっと皆さんに学校の取組を知っていただく機会を作り、学校とつなげる取組をしていく必要があると感じた。その他、来年度の県作成

のパンフレットに本町の取組が掲載予定。2月19日に町民対象の給食試食会を実施予定。

委員 あと2年で小学校と中学校が合体する、中学校の報告で入学説明会を頑張ったとあったが、良い経験だと思う。合体するとそのような機会がなくなるかもしれない。子ども達はどんなイメージを持っているのかと思った。

国語の辞書は今どのように使っているか。

瀬尾校長 小学校は3年生から使用。今の国語教諭はよく利用している。

委員 言葉は重要。義務教育学校になると入学説明会のような良い機会がなくなってしまう。わかりやすくまとめて発表するという場を作った方がよい。その際に、言葉を知っていることが大事だと思う。

5 閉会

会長挨拶